

(H27. 10. 31)

各学部・研究科未来プラン 概要版

目 次

1 はじめに

- <1> 位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- <2> 特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- <3> 表記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- <麁> 名市大未来プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 各学部・研究科未来プラン

- <1> 主な取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- <2> 学際的・組織横断的な取組み・・・・・・・・・・・・ 8

—各未来プラン概要—

- 医学部・医学研究科
「人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科」・・・10
- 附属病院
「サクラ咲くプラン」・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 薬学部・薬学研究科
「薬学未来プラン“薬進”」・・・・・・・・・・・・ 14
- 経済学部・経済学研究科
「名古屋とともに世界を翔ける名市大経済」・・・ 16
- 人文社会学部・人間文化研究科
「人社の改進黨」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 芸術工学部・芸術工学研究科
「希望と共感のデザイン」・・・・・・・・・・・・ 20
- 看護学部・看護学研究科
「進化する名市大看護学部・看護学研究科」・・・ 22
- システム自然科学研究科
「リーディング・サイエンス・プラン」・・・・・・・・ 24

1 はじめに

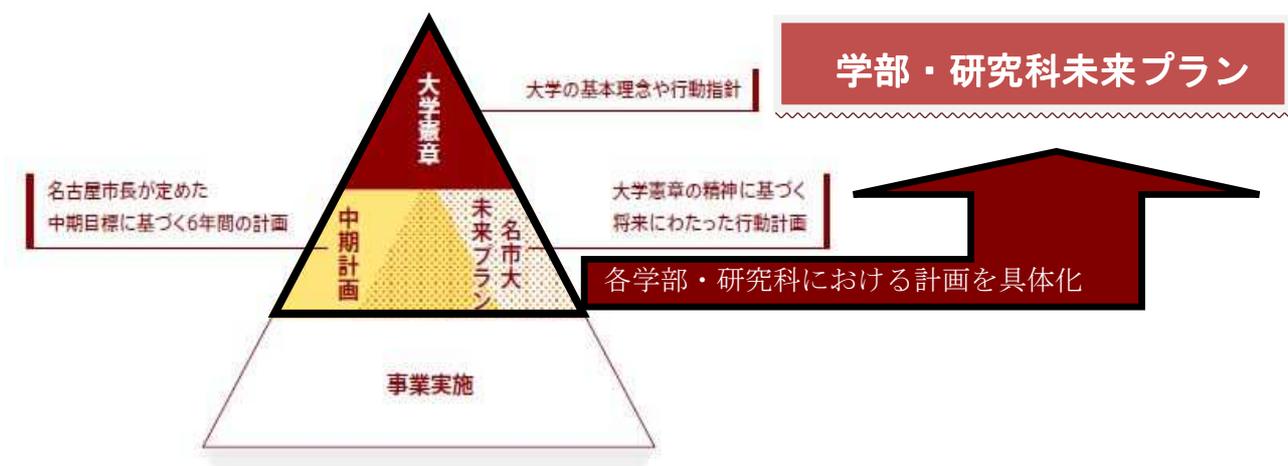
<1>位置づけ

平成26年10月に策定しました大学憲章及び本学の明るい未来をグランドデザインする「名市大未来プラン」(次頁<参考>参照)における4つのビジョンと52の項目の着実な実行と全学的な展開を図るため、このたび、各学部・研究科における計画を具体化させた事項・内容を、「学部・研究科未来プラン」として策定しました。

「各学部・研究科未来プラン概要版」は、大学全体として概要をまとめたものです。

【概念図】

〔大学憲章と名市大未来プランの関係イメージ〕



<2>特徴

本計画における記載内容は各学部・研究科、附属病院における取組みが基本ですが、全体としては、各学部・研究科、附属病院間の学際的・組織横断的な連携・協力の強化が図られています。

<3>表記

ア 期間

名市大未来プランにならない、実現するまでの期間について、以下の4つの区分で記載しました。

区分	学部・研究科未来プラン(H27.10策定)	名市大未来プラン(H26.10策定)
i	1年以内に実現させる事項	1年以内に実現させる事項
ii	今後3年間(平成29年度末まで)に実現させる事項	今後4年間(平成29年度末まで)に実現させる事項
iii	今後7年間(平成33年度末まで)に実現させる事項	今後8年間(平成33年度末まで)に実現させる事項
iv	15年後を見ずえながら実現に向けて取り組む事項	15年後を見ずえながら実現に向けて取り組む事項

イ 組織

「組織」欄の表記の意味は以下のとおりです。

医⇒医学部・医学研究科、病⇒附属病院、薬⇒薬学部・薬学研究科、
 経⇒経済学部・経済学研究科、人⇒人文社会学部・人間文化研究科、
 芸⇒芸術工学部・芸術工学研究科、看⇒看護学部・看護学研究科、
 シス⇒システム自然科学研究科

<参考>名市大未来プラン

(1) 4つのビジョン

誇りを持ち、愛される名市大 —教育・研究・診療の環境づくり—
名古屋市と共に発展する名市大 —名市大の明るい未来づくり—
戦略性を持って世界に飛躍する名市大 —和、実行力、戦略性、透明性のある大学づくり—
経営基盤が安定した名市大 —経営改善に向けた体制づくり—

(2) 項目一覧

区分	項目	未来像
I 総論	(1) 愛校心の醸成・開学70周年(2020年)に向けた気運向上	○学生、教職員、同窓生やその家族など本学関係者と市民にとって、誇りに思い、愛着を感じられる大学となるような環境づくりを行います。
	(2) 世界をリードする大学への発展	○世界大学ランキングの上位を占めるような、研究・教育の分野で世界をリードする大学への発展を目指します。
	(3) 名古屋市との連携強化	○名古屋市との意思疎通を密にし、連携の強化を通して、名古屋市政に貢献します。
	(4) 名古屋市総合計画2018への名市大の取組みの掲載	○名古屋市総合計画2018に市の施策の推進に関わる本学の取組みを積極的に掲載するとともに、各計画目標の達成を図ります。
	(5) 新学部の設置	○公立の総合大学としての魅力向上と、地域貢献の促進のため、新しい学部の設置に向けて取り組みます。
	(6) 分散したキャンパスの統合	○分散したキャンパスを統合し、長期的視点に立ったキャンパス整備に取り組みます。
	(7) 新学部棟の建設	○開学70周年を機に、新たな学部棟の建設に向けて取り組みます。
	(8) 環境アクションプランの策定	○環境アクションプランを策定し、教育研究活動や業務運営の改善を通じて、環境負荷の低減と環境の保全に取り組みます。
	(9) 他大学との連携強化	○今後のさらなる少子化・大学全入時代において、確固たる地位を保持すべく、他大学と緊密な関係を築き、今まで以上に連携・交流を深めていきます。
II 教育	(1) 多面的な教養教育の実施	○のびやかで主体的な学びを推進する教養教育を実施し、心豊かな人材を育てます。
	(2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進	○専門横断的な教育により、多職種協働能力を有した職業人および学際的な視野を持つ人材の育成に取り組みます。
	(3) 学生数・教員数の増加	○本学が優れた教育・研究を行うために必要な大学規模を構想し、学生数の増加と必要な教員の配置等の体制整備に向けて取り組みます。
	(4) 学生支援のワンストップ化	○学生支援施設の充実化を図り、新学務センターを設置し、学生支援全般についてワンストップ化を目指します。
	(5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実	○学生生活を通してのキャリア形成・就職支援を推進します。
	(6) 障がいのある学生、被災学生、外国人留学生などに対する支援	○障がいのある学生、被災学生、外国人留学生など特別なニーズを有する学生に対して、対象者の視点に立ち、適時適切な支援を行います。

区分	項目	未来像
Ⅱ 教育	(7) リカレント教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門職業人の学び直しプログラムを推進します。 ○ さまざまなニーズをもった学修意欲の高い社会人の大学（院）再入学の仕組みづくりを推進します。 ○ 名古屋市職員や本学職員の専門的・力量向上のために本学大学院への入学を奨励します。
	(8) 総合情報センター・図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生ならびに地域住民の学習ニーズに合った多様なスペースや情報環境を確保し、地域における知の交流拠点としての整備を進めます。
Ⅲ 研究	(1) 全学的な研究推進機関の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究科・学部間の枠を超えた全学的な研究推進機関として「研究戦略推進機構（仮称）」を設置し、学内外との連携により、世界的に高度なレベルの研究を戦略的に展開します。 ○ 全学的な研究支援体制を整備するため、「研究戦略推進機構（仮称）」の下に「研究推進本部」を設置し、教員の研究活動をさまざまな側面から支援できる環境・制度づくりを進めます。
	(2) 戦略的な外部資金の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部研究資金の増加を目指して、「研究戦略推進機構（仮称）」において数値目標を定め、研究推進本部の役割を機能的に発揮させることで、戦略的に外部研究資金の獲得を進めます。
	(3) 特別研究奨励費の戦略的配分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学内の競争的資金である特別研究奨励費について、学問性に配慮しつつ本学の研究活動の推進に資することを前提に、外部研究資金獲得や研究の国際化を目指し、戦略性を持った公平で客観的な審査基準を設けて配分します。
	(4) 共用研究施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各研究科が設置する共用研究施設・設備の全学での共同利用をさらに進めるとともに、共用研究施設・設備の充実を図ります。
	(5) 看護実践研究センターを中心とする学際的研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 看護実践研究センターが中心となり、人々の生活や健康に寄与する学際的な共同研究を推進します。
Ⅳ 社会貢献	(1) 全学的な社会貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会連携センターを中心に、産学官連携および地域を志向する教育・研究による地域連携を図り、全学的に社会貢献活動を推進します。
	(2) 研究成果の社会への還元	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域・国際社会の発展に寄与するため、本学の研究成果を社会に周知し、科学・技術、芸術・文化、産業・経済の進展と健康・福祉の向上に役立てていくとともに、研究成果である知的財産の創出、保護・管理および活用を図る効果的な方策を企画・立案し、本学の知的財産が広く社会に活用されるよう産学官連携を積極的に推進します。
	(3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生や若い人材が地域の住民や機関と協働してエイジング・イン・プレイス（A I P）コミュニティづくりに取り組むモデル地区を緑区鳴子地域に形成し、高質なA I P社会を実現する医学・医療の発展と向上を担う人材を養成するとともに、継続可能な人材養成システムの構築を目指します。
	(4) 「すこやかなごや」事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名古屋市と連携して、名古屋市総合計画 2018 の重点戦略に貢献する「子ども青少年『すこやかなごや』ひとづくり・まちづくり」事業を全学一丸となって実施します。
	(5) 名古屋市教育委員会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名古屋市教育委員会との包括的連携協定を基礎に、「子ども応援委員会」、高大連携等、多面的な分野での連携を強化します。
	(6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高大連携を推進し、地元の優秀な学生の育成を目的とする入学試験の制度設計を行います。
	(7) 名古屋市との協働関係の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 審議会等への教員の参画や受託事業・共同研究等の協働事業をさらに進め、名古屋市のシンクタンク機能を本学が一層担うことで、市とより強固な協働関係を築きます。
	(8) 地域に開かれた大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学施設を市民に開放するほか、幅広い世代の市民に生涯学習機会を提供するなど、「地域に開かれた大学」として社会貢献に努めます。
Ⅴ 国際化	(1) グローバル化アクションプランの策定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界に発信する大学づくりを目指し、「グローバル化アクションプラン」を策定します。
	(2) 国際交流センターの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際交流センターの活動機能を充実・強化し、大学国際化の拠点とします。
	(3) 生物多様性研究の国際的な拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物多様性研究の国際的な拠点づくりと、生物多様性ホットスポットの多い東南アジアを対象に国際貢献をします。

区分	項目	未来像
VI 附属病院	(1) 市民の医療ニーズに対応した医療提供体制の強化	○高度急性期病院・特定機能病院として市民や医療圏の期待に応えるため、入院主体の病院に変革を図るとともに、人員および組織体制の充実により医療提供体制を強化します。
	(2) 高度医療提供のための病院施設等の再整備	○高度急性期病院・特定機能病院としての役割を果たすため、医療制度や診療報酬制度等の動向を踏まえ、機能強化のための病院施設および医療機器等の再整備を推進します。
	(3) 臨床研究の強化による新しい医療の創出	○高度先進医療、治験、医療イノベーションなど大学病院に相応しい分野での増収に努めるとともに、地域社会の発展に貢献します。
	(4) 地域社会を担う優れた医療人の育成	○地域社会を担う優れた医療人を育成するため、基礎から高度な医療まで幅広く対応できる医療スタッフ・職員の教育・人材育成を実施します。
	(5) 安定経営のための経営改革の推進	○病院全体をマネジメントするとともに、人員・設備・資金の経営資源を効率的に活用し、低コストで最大の効果を上げる経営改革を推進します。
	(6) 東部・西部医療センターとの連携強化による名古屋市全体の医療機能の充実	○市民の健康福祉に寄与するため、本院と市立東部・西部医療センターとの連携強化と機能分担により、1800床からなる統合的な医療提供体制を構築し、名古屋市全体の医療機能をさらに充実させます。
VII 大学経営・財務内容の改善	(1) 全学的な意思決定の体制整備	○全学的な合意形成・意思決定を、幅広い層から機動的に行うことができる体制を整えます。
	(2) 戦略的な企画運営	○本学の将来を見すえた戦略的な企画運営のため、学内外の識者から意見を求めます。
	(3) 資産の有効活用と自己収入の確保	○資産の全学的な有効活用を進めるとともに経費を有効に活用し、教育・研究の質の向上に取り組んでいきます。 ○大学で認められる附帯事業の範囲内で、収益を獲得するよう努めます。
	(4) 運営費交付金の安定的確保	○名古屋市と本学がともに発展するよう、法人の経営努力が反映され、法人のインセンティブが働く算定基準の導入を目指します。 ○大学について、経費節減対象経費の見直しを行うなど、教育・研究環境が改善され、必要な財源を確保できる運営費交付金を目指します。 ○病院について、高度先進医療の提供や、優れた医療人の輩出といった大学病院の責務を継続的に果たすために、必要な財源を確保できる運営費交付金を目指します。
	(5) 施設整備にかかる財源の確保	○施設整備に必要な財源を確保します。 ○設立団体からの長期借入金により施設整備を行うことができる仕組みの確立を目指します。
	(6) 国への制度改正要望	○収益事業の制約緩和や私立大学並みの補助金給付等について、他の公立大学と協力して法制度の改正等を国へ要望します。
VIII 業務運営の改善	(1) 法人評価における認証評価結果の活用	○評価事務の効率的・効果的な実施に向け、法人評価における認証評価結果の活用方法について名古屋市と協議します。
	(2) 本学の知名度向上	○戦略的な情報発信に努めるとともに、大学のロゴやシンボルマーク、キャラクターやグッズを作成して、イベントや広報媒体などに活用し、本学の知名度向上を図ります。
	(3) 大学教職員の人材育成・登用	○大学運営の両輪である教員および職員による「equal partnership」の関係を築きながら、大学マネジメントを担う幅広い視野と専門的知識を有した若手の大学・病院教職員の育成を目指すとともに、積極的な登用を行います。
	(4) 教職員への定年後における活躍の場の提供	○教職員が定年後も本学の教育・研究・診療等において活躍できる場を提供します。
	(5) 女性教職員の積極的な採用・登用	○国の目標である「202030」の実現に向けて、積極的に女性教職員を採用・登用します。
	(6) ワーク・ライフ・バランスの推進	○仕事と生活の調和を実現し、教職員がいきいきと活躍できる大学・病院を目指します。
	(7) サバティカル制度の試行	○教員が一定期間自らの研究に専念できる環境を用意することにより、研究実績の着実な積上げをサポートし、学内業務を遂行するモチベーションを高めます。

2 各学部・研究科未来プラン

< 1 > 主な取組み

各学部・研究科、附属病院の未来プランの掲載項目から、第二期中期計画期間内である期間 ii（平成 29 年度末まで）に実現させる項目を中心に 3 項目を主な取組みとして整理しました。

組織	主な取組み
医	①プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革
	②病院機構改革と協働した組織強化および最先端の医療研究の推進
	③附属病院等との協力による総合的な人材育成システムの構築
病	①新たな組織の設置及び施設整備
	②研究の推進
	③医療人の育成
薬	①創薬基盤科学研究所の拡充と戦略的研究展開
	②高度薬剤師養成に向けた連携
	③海外拠点の設置
経	①大学院教育システム等の改善及び研究者の養成
	②名古屋市をはじめ公的機関との連携の拡大/地元企業等との連携の拡大
	③最先端で高水準な研究の推進と次世代リーダーの育成
人	①ESD を柱とした教育・研究活動の絶え間ない革新
	②大学院における専門職のリカレント教育の実施
	③名古屋市教育委員会子ども応援委員会事業への強力なサポート
芸	①大学院生研究体制の強化
	②外部資金の獲得推進
	③実習課題への地域課題の導入
看	①実習施設との連携による教育方略の導入
	②名古屋市立大学看護学会（仮称）の創設と学会誌の発刊
	③学部開設 20 周年（2019 年）記念事業の実施
シス	①研究基盤の重点的整備の推進
	②理学系新学部の設置
	③高齢者による自然科学振興のための新たな組織（SSLC）の構築

<2>学際的・組織横断的な取組み

各学部・研究科、附属病院の未来プランの掲載項目から、各学部・研究科、附属病院間の学際的・組織横断的な取組みを整理しました。

区分	項目	期間	組織	掲載頁			
教育	①全学的な教養教育の充実 教養教育を企画立案し総括的な権限を持った教養教育センター（仮称）の下に全専任教員がいずれかの部会に登録する部会登録制の導入や、語学教育充実のための語学センター（仮称）の設置などを全学で進めます。	i ~ iv	医	5			
			薬	4			
			経	2			
			人	2			
			芸	9			
			看	1			
教育	②リカレント教育の再構築 名古屋市立大学全体の社会人リカレント教育（「学び直し学部（仮称）」の設置など）の再構築を進めます。	i ~ iv	シス	3			
			医	7			
			薬	7			
			経	3			
			人	2			
			芸	8			
教育・研究	③優秀な医療人を輩出する教育の実施 附属病院等との連携により、専門医・指導医、高度薬剤師、看護職者の育成等を進めます。	i ~ iii	看	1			
			薬	4			
			医	3			
教育・研究	④医療経済マネジメントコースの設置 医療関係者を対象として経済学・経営学に関連する高度専門的教育を実施します。	i ~ ii	医	2			
			薬	4			
			経	2			
			医	2			
教育・研究	⑤医療心理センター（仮称）の設立 医療心理学の実践と学際的な研究を担える人材を育成します。	ii	人	3			
			看	2			
			医	2			
教育・研究	⑥大学院医薬学総合研究科（仮称）の設置 医学研究科と薬学研究科の大学院を統合し、大学院医薬学総合研究科に再編成します。	ii ~ iii	医	4			
			薬	4			
			経	3			
			人	3			
研究	⑦文系学部・研究科における交流拡大 文系学部・研究科間の単位互換・ゼミ同士の交流など学部授業の相互乗り入れを拡大します。	i ~ ii	医	1			
			病	18			
			薬	3			
			経	4			
			人	4			
			芸	9			
			看	2			
			シス	2			
			研究	⑧戦略的な外部資金の獲得 学部・研究科間の連携を進めるとともに、リサーチ・アドミニストレーター（研究情報の調査・分析、大型研究費の獲得支援等を行う専門人材）を配置する URA オフィスとも連携するなどして、外部資金獲得を進めます。	i ~ iv	医	4
						薬	3
医	2						
病	18						
研究	⑨医薬共同研究推進室（仮称）の設置 定期的な医薬合同リサーチ会議（仮称）の開催など、大型資金獲得に向けた取組みを戦略的かつ継続的に推進します。	ii ~ iii	芸	10			
			医	2			
			薬	3			
研究	⑩医工連携の推進 医工学の領域横断的な教育・研究を推進します。	i ~ iii	医	1			
			薬	3			
			シス	2			
研究	⑪研究設備の充実と共同利用 最先端の研究設備の計画的な導入と全学的な共同利用化に向け、大学本部をはじめ、学部・研究科間の連携を進めます。	i ~ iv	医	1			
			薬	3			
			シス	2			

区分	項目	期間	組織	掲載頁
社会 貢献	⑫研究成果の社会への還元 本学の研究成果である知的財産が広く社会に活用されるよう産学官連携を積極的に推進します。	i ~ iv	医 病 薬 経 人 芸 看 シス	7 15, 18 3, 4, 7 4, 5 1 11, 12 1, 2 5
	⑬高大連携の推進と入試改革への対応 大学と高校の高大連携を推進するとともに、地元の優秀な学生を育成するため、国の高大接続改革の趣旨を踏まえ2020年度導入予定の新入学試験制度を構築します。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	4, 7 7 2 4 8, 12 1 5
	⑭なごやかモデルの推進・地域包括ケアへの協力 質の高い地域包括ケアを継続的に提供できる医療環境の構築に協力します。	ii	医 病 薬 看	7 19 7 2
	⑮まちづくり研究と都市研究の強化 グローバル化・都市間競争の激化を踏まえた新しい都市研究・教育を通して名古屋市と名古屋圏の発展に貢献します。	i ~ iii	経 人 芸	4 1, 3 10
国際化	⑯国際化の推進 大学院教育において秋季入学制度の導入や英語での講義を行うとともに、名市大全校の窓口となる海外拠点の設置や海外大学との教育面での交流を促進します。 さらに、世界レベルの研究展開のため、国際共同研究の拡大・深化など、研究の国際化を推進します。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	4, 5 6 2 2 11 3 4
その他	⑰キャンパスの施設利用・整備 施設設備の有効利用を図るとともに、教育研究環境の整備とあり方の検討を進めます。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	5 8 6 4 10 3 3

※次頁以降の各学部・研究科、附属病院の未来プランの「3 項目一覧」において、「学際的・組織横断的な取組み」に関連する項目は番号を掲載しています。

※「掲載頁」は各学部・研究科、附属病院の未来プランにおける掲載頁を表しています。

なお、各未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイト (<http://www.nagoya-cu.ac.jp/>) 内の「名市大未来プラン」で公開しています。

名市大未来プラン

検索



医学部・医学研究科「人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

- ・世界トップレベルの特色ある研究を推進します
- ・優秀な医療人を輩出するため総合的な人材育成システムを構築します
- ・最先端の医療研究を推進し、高度で先進的な医療を提供します
- ・研究成果を社会に還元し、市民の健康と福祉の向上に寄与します

名古屋市立女子高等医学専門学校に始まり、70年を超える歴史を持つ医学部・医学研究科は、地域の皆様に支えられ多くの良き医療人を輩出してきました。この良き伝統に加え、本未来プランの下、世界の医学・医療の発展に資する、名市大発の革新的な成果が生まれるよう引き続き努力して参ります。そして、人々の健康と福祉の増進に貢献する、だれからも愛される名市大医学部・医学研究科を作り上げるべく邁進します。

〔医学研究科長・医学部長 浅井清文〕

2 主な取組み

① プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革

新たな研究センターを設置し、本医学研究科の特色ある研究を世界トップレベルで推進します。

【期間】 ii：今後3年間に実現

② 病院機構改革と協働した組織強化および最先端の医療研究の推進

市民および社会の医療ニーズの変化に対応した高度急性期医療を安定的に提供するため、臨床医学分野の組織強化を図るとともに、医学研究科と附属病院が協力し、最先端の医療研究を推進し、高度で先進的な医療を提供します。

【期間】 ii：今後3年間に実現

③ 附属病院等との協力による総合的な人材育成システムの構築

卒前から卒後まで総合的な教育システムを構築し、優秀な医療人を輩出する学部となります。

【期間】 i：今後1年間に実現～ii：今後3年間に実現

3 項目一覧

区分	項 目		期間	掲載頁
	〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。)〕			
総論	I (2) 世界をリードする大学への発展			
		①プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革(③)	ii	1
教育	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進			
		○大学院医薬学総合研究科(仮称)への発展(⑥⑨)	ii ~ iii	4
	II (3) 学生数・教員数の増加			
		③附属病院・連携病院との協力による卒前・卒後までの総合的な人材育成システムの構築(③)	i ~ ii	3
		○医学教育認証評価制度を踏まえた教育システムの整備と認証評価の受審	ii	3
	II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実			
		○MD-PhD コースの充実による医学研究者の育成	ii	5
研究	II (7) リカレント教育の充実			
		○公開講座の一本化による「学びなおし学部(仮称)」の設置(②)	iii	7
	III (1) 全学的な研究推進機関の設置			
	○学部・研究科間を越えた連携による研究の推進(④⑤⑩)	ii	2	
研究	III (4) 共用研究施設・設備の充実			
		○共同研究教育施設の改革による研究環境の充実(⑪)	i ~ ii	1
社会貢献	IV (3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功			
		○地域包括ケアへの協力(⑫⑭)	ii	7
	IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化			
		○名古屋市教育委員会と連携した高大連携教育の推進(⑫⑬)	ii	7
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成			
		○高大接続による新たな入試制度の構築(⑯)	ii	4
		○(再掲)名古屋市教育委員会と連携した高大連携教育の推進(⑫⑬)	ii	7
国際化	IV (7) 名古屋市との協働関係の強化			
		○(再掲)地域包括ケアへの協力(⑫⑭)	ii	7
	V (1) グローバル化アクションプランの策定			
	○大学院教育の国際化対応(⑰)	ii	4	
	○学び続ける医療人の育成に向けた学習環境の整備(①⑱⑲)	iv	5	
その他	VI (1) 附属病院：市民の医療ニーズに対応した医療提供体制の強化			
		②病院機構改革と協働した臨床医学分野の組織強化	ii	6
	VI (3) 附属病院：臨床研究の強化による新しい医療の創出			
		②最先端の医療研究の推進	ii	6
	VIII (3) 業務運営の改善：大学教職員の人材育成・登用			
	○研究者の能力向上を基盤とした研究活動の活性化	iii	2	

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

附属病院「サクラ咲くプラン」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

国の医療費削減や患者ニーズが多様化するなか、当院は弛まない努力により継続的な発展を遂げて参りましたが、名市大未来プランの策定を契機に中長期的な視点で「我々自身の今後のあり方」と改めて向き合い、ヒアリングによる意見交換等を重ね、私たちの未来をサクラ咲くプランとして描きました。

本プランでは、「医療環境の変化に対応するために職員の意識改革を行い、成長経営へ向けた病院の変革を実現するとともに、地域でトップレベルのブランド病院を確立する。」ことを目指しています。

本プランの実現は決して容易いものではありませんが、職員一人ひとりが同じ方向に向かって全力を発揮すればできないことは決してないと考えています。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

〔附属病院長 城卓志〕

2 主な取組み

① 新たな組織の設置及び施設整備

特定機能病院として高度な医療を提供するため、形成外科、内視鏡医療センター、地域医療連携センター、不育・不妊センター、アイセンター等を設置するとともに、医療需要へ対応するため、手術室等の高度医療施設の整備を行います。

【期間】 i：今後1年間に実現～iii：今後7年間に実現

② 研究の推進

臨床試験管理センターの体制強化等を通じて、治験や医師主導型の臨床試験を増加させるなど研究の推進を図ります。

【期間】 i：今後1年間に実現～ii：今後3年間に実現

③ 医療人の育成

新たな専門医制度へ対応した教育研修システムを整備するとともに、医療技術職や事務職の人材育成制度について体系化を図るなど人材育成を推進します。

【期間】 i：今後1年間に実現～ii：今後3年間に実現

3 項目一覧

区分	項 目 〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。)〕	期間	掲載頁
附属 病院	VI(1) 市民の医療ニーズに対応した医療提供体制の強化		
	①新たな組織の設置	i ~ ii	11
	○フレキシブルな人員配置	i ~ ii	13
	○メディカルスタッフ充実	i ~ ii	13
	○災害医療の充実	i ~ ii	17
	VI(2) 高度医療提供のための病院施設等の再整備		
	①新たな施設整備	ii ~ iii	12
	VI(3) 臨床研究の強化による新しい医療の創出		
	②研究の推進(⑧⑩⑫)	i ~ ii	18
	VI(4) 地域社会を担う優れた医療人の育成		
	③医療人の育成(③)	i ~ ii	15
	○新たな研究分野の設置(⑬)	i ~ ii	15
	VI(5) 安定経営のための経営改革の推進		
	○ブランド力のアップ	i ~ iii	16
	○モチベーションの向上	i ~ iii	16
	○経営基盤の強化(⑭)	i ~ iii	19・20
VI(6) 東部・西部医療センターとの連携強化による名古屋市全体の医療機能の充実			
○病院局との連携の強化	i	19	

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

薬学部・薬学研究科「薬学未来プラン“薬進”」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

- ・ 独創性・新規性に富む世界最先端の創薬・臨床研究を強力に推進します
- ・ 薬剤師や創薬研究者をはじめとする医療と健康に貢献する人材育成を行います
- ・ くすりのプロとして、様々な形で、社会貢献をグローバルに展開します

薬学部は130年余の長い歴史と伝統をもち、多くの優れた人材を輩出してきましたが、急速に進む少子高齢化、医薬品の多様化、医療費の高騰、社会のグローバル化と地域社会の変容、地球環境の変化などにより、薬学が取り組むべき課題も質・量ともに急拡大しています。これに対応するには、異なる分野、職種、地域との連携を密にして、多角的に取り組む必要があります。薬学は、様々な基礎科学を根にもつ学問であり、多種多様な領域と連携して教育・研究を行なうポテンシャルと柔軟性をもっています。私たちは、この薬学の特徴を生かし、その教育と研究の成果を、世界に、地域に、そして人に届け、人類の健康と福祉の発展に貢献して参ります。

〔薬学研究科長・薬学部長 平嶋尚英〕

2 主な取組み

① 創薬基盤科学研究所の拡充と戦略的研究展開

創薬基盤科学研究所の組織を再編し、他学部と連携しながら創薬に直結した研究体制を作り、世界トップレベルの研究推進と外部資金の獲得を図ります。

【期間】 i：今後1年間に実現～ ii：今後3年間に実現

② 高度薬剤師養成に向けた連携

全国レベル、東海地区レベル（東海薬学教育コンソーシアム）、県レベル（市大病院、東部・西部医療センターと地元薬局）での連携強化による高度薬剤師教育体制を確立します。

【期間】 i：今後1年間に実現～ ii：今後3年間に実現

③ 海外拠点の設置

名市大全学との窓口としてハジェテペ大学に事務局を設置するとともに、広く海外からの留学生の獲得、国際共同研究の拡大・深化を行います。

【期間】 i：今後1年間に実現～ ii：今後3年間に実現

3 項目一覧

区分	項目 〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。〕	期間	掲載頁
総論	I (2) 世界をリードする大学への発展		
	①創薬基盤科学研究所(創薬研)の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得(③⑪)	i ~ ii	3
	I (4) 名古屋市総合計画 2018 への名市大の取組みの掲載(名古屋工業大学との連携)		
	○名古屋工業大学との連携強化	i ~ ii	4
教育	I (9) 他大学との連携強化		
	○(再掲)名古屋工業大学との連携強化	i ~ ii	4
	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学教養教育の充実への協力(①)	i ~ ii	4
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	○大学院医薬学総合研究科の設立(⑥)	ii ~ iii	4
	○医療経済マネジメントコースへの参画(④)	ii	4
○PMDA との包括連携協定の締結に基づく教育プログラムの開発	i ~ ii	4	
②高度薬剤師養成にむけた連携(⑤⑫)	i ~ ii	4	
○名古屋市衛生研究所との連携大学院の設立	i	4	
II (3) 学生数・教員数の増加			
○大学院博士課程の学生への経済支援の強化	i ~ ii	5	
研究	III (2) 戦略的な外部資金の獲得		
	①(再掲)創薬基盤科学研究所(創薬研)の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得(③⑪)	i ~ ii	3
	○医薬共同研究推進室および産学連携研究推進室の設置(③⑨⑪⑫)	ii	3
	III (4) 共用研究施設・設備の充実		
①(再掲)創薬基盤科学研究所(創薬研)の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得(③⑪)	i ~ ii	3	
○(再掲)医薬共同研究推進室および産学連携研究推進室の設置(③⑨⑪⑫)	ii	3	
社会貢献	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	○学び直し教育の充実(②⑫)	i ~ ii	7
	IV (3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功		
	○「なごやかモデル」の推進(⑫⑬)	ii	7
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
○推薦入試への地元高校卒の導入(⑬)	i ~ ii	7	
○高校への出張講義・研究指導による学会発表プログラムの導入(⑫⑬)	i ~ ii	7	
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	③海外拠点の設置(⑮)	i ~ ii	6
その他	I (1) 総論：愛校心の醸成・開学 70 周年(2020 年)に向けた気運向上		
	○同窓生意識の共有と同窓会との連携強化	ii	8
	VII (3) 大学経営・財務内容の改善：資産の有効活用と自己収入の確保		
	○コンビニエンスストア併設宿泊施設の設置(⑰)	ii ~ iii	8
	VIII (5) 業務運営の改善：女性教職員の積極的な採用・登用		
○上位職(教授・准教授)への女性登用	ii	5	

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

経済学部・経済学研究科「名古屋とともに世界を翔ける名市大経済」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

- ・ 経済学・経営学に軸足を置いてその学術的追究を基本とする歩みを継続する
- ・ 社会の状況に合わせて諸科学の発展に必要な教育・研究のあり方や変化の方向を意識し、それらを取り入れることに躊躇しない
- ・ 学術研究の成果を世界に問い続けるとともに、それらに基づいた教育によって優れた人材を多様な分野に輩出する

これらの目標を具体化し、それらを達成することで、名市大経済学研究科が社会の発展に寄与するためのプランです。

[経済学研究科長・経済学部長 焼田党]

2 主な取組み

① 大学院教育システム等の改善及び研究者の養成

医療経済マネジメントコースの設置をはじめとして、専門的な実務教育を目的とした、ビジネスコースや政策分析コース等の開設に向けた準備や、複数指導体制の実質化などを進めます。

【期間】 i：今後1年間に実現～ii：今後3年間に実現

② 名古屋市をはじめ公的機関との連携の拡大/地元企業等との連携の拡大

名古屋市と協力した地域開発プロジェクトの実施や、「地域実践科目」として地元企業や商店街との連携強化による現場の経済問題や経営問題の解決への貢献などを図ります。

【期間】 ii：今後3年間に実現

③ 最先端で高水準な研究の推進と次世代リーダーの育成

世界をリードする最先端で質の高い研究活動を推進し、これを教育に還元することで次世代のリーダーを育成していきます。また、協定校をはじめ海外大学との教員・大学院生の学術交流を活発化させます。

【期間】 iii：今後7年間に実現

3 項目一覧

区分	項目 〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。)〕	期間	掲載頁
総論	I (2) 世界をリードする大学への発展		
	③最先端で高水準な研究の推進と次世代リーダーの育成	iii	4
	○研究における経済学・経営学を軸とする学術的 pursuit と他研究科との積極的交流	iii	4
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学的な教養教育の充実への協力 (①)	ii	2
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	①大学院教育システム等の改善及び研究者の養成 (④)	i ~ ii	2
	II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実		
	○(再掲)「基礎教育」と「実務教育」を柱とした学部教育の充実	ii	2
	II (7) リカレント教育の充実		
	○他研究科・学部とも協力した、様々な問題意識を持つ社会人の学び直しの機会の提供 (②⑦)	i ~ ii	3
研究	III (2) 戦略的な外部資金の獲得		
	○外部研究資金の獲得 (⑧)	ii	4
社会 貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進		
	②地元企業等との連携の拡大 (⑫)	ii	5
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	○他団体等との連携による「名古屋の経済・経営分析」(⑫⑮)	ii	4
	IV (6) 高大連携の推進による地域の優秀な学生の育成		
	○多様な人材発掘と教育に向けた入試制度の変更 (⑬)	ii	2
	IV (7) 名古屋市との協働関係の強化		
	②公的機関との連携の拡大 (⑫)	ii	5
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○国際交流の活発化と国際化に対応した教育プログラムの提供 (⑯)	i ~ ii	2
その他	VII (5) 施設整備にかかる財源の確保		
	○山の畑キャンパスにおける施設・整備の効率的な利用 (⑰)	iii	6
	VIII (3) 業務運営の改善：大学教職員の人材育成・登用		
	○若手教員のサポートと次世代の大学運営を担う人材の育成	ii	6

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

人文社会学部・人間文化研究科「人社の改進黨」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

人文社会学部は創立 20 周年を迎えました。学部から遅れて設置された人間文化研究科と一体になり、人文・社会科学の複合的な研究・教育の拠点として発展してきました。この 20 年の歩みを振り返り、名古屋都市圏に貢献する研究・教育をさらに進めていきたいと思ひます。ESD（持続可能な社会のための教育）を教育の柱にしていますが、名古屋都市圏の持続可能な発展のために、世代育成、リニア開通を念頭に置いたまちづくり、国際都市名古屋の多文化共生に資する人材育成と研究に特に力を入れたいと思ひます。また学内では全ての学生の成長を支える教養教育を積極的に担うと同時に他研究科と連携した文理横断の新しい研究にもチャレンジします。

〔人間文化研究科長・人文社会学部長 伊藤恭彦〕

2 主な取組み

① ESD を柱とした教育・研究活動の絶え間ない革新

ESD 国際会議後の「持続可能性」課題の国際動向を踏まえ、絶えず ESD を柱とした教育・研究活動を革新していきます。

【期間】 i : 1 年以内に実現～ ii : 今後 3 年間に実現

② 大学院における専門職のリカレント教育の実施

大学院に現職の保育士、教員（幼稚園、中学校、高等学校）、公務員、社会福祉専門職を積極的に受け入れ専門職のリカレント教育を進めます。

【期間】 ii : 今後 3 年間に実現

③ 名古屋市教育委員会子ども応援委員会事業への強力なサポート

学校現場と教育に強い臨床心理士や公認心理師及び社会福祉士の養成を行うため、大学院改組や学部カリキュラムの整備を進めるとともに、子ども応援委員会に対してサポート（研修・実践プログラム開発）していきます。

【期間】 i : 1 年以内に実現～ iii : 今後 7 年間に実現

3 項目一覧

区分	項目		期間	掲載頁
	〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。)〕			
総論	I (3) 名古屋市との連携強化			
		○名古屋市と名古屋都市圏の「まちづくり」への貢献と人材の育成(12 15)	i ~ iii	1
	I (9) 他大学との連携強化			
		○近隣大学との交流と連携の推進	ii	3
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施			
		○教養教育の講義における積極的な関与(1)	i	2
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進			
		①ESDを柱とした教育・研究活動の絶え間ない革新	i ~ ii	3
		○名市大の他部局との連携強化(5715)	ii	3
	II (3) 学生数・教員数の増加			
		○文系学部の発展・拡充を目指した全学的な検討	i ~ iii	3
		○(再掲)名市大の他部局との連携強化(5715)	ii	3
	II (7) リカレント教育の充実			
		○名市大全体の社会人リカレント教育の再構築における中心的役割での関与(2)	ii ~ iii	2
	②大学院における現職保育士等の受け入れによる専門職のリカレント教育の実施(2)	ii	2	
研究	III (1) 全学的な研究推進機関の設置			
		○医療系・理系を含む異分野との共同研究の拡大	i ~ ii	4
	III (2) 戦略的な外部資金の獲得			
		○大型外部研究資金の獲得(3)	i ~ ii	4
社会貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進			
		○(再掲)名市大の他部局との連携強化(5715)	ii	3
	IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化			
		③名古屋市教育委員会子ども応援委員会事業への強力なサポート(12)	i ~ iii	1
	IV (6) 高大連携の推進による地域の優秀な学生の育成			
		○高大接続課題の検討(16)	i ~ ii	4
	IV (7) 名古屋市との協働関係の強化			
		○(再掲)名古屋市と名古屋都市圏の「まちづくり」への貢献と人材の育成(1215)	i ~ iii	1
		○名古屋国際センターやJICAとの連携強化による名古屋市の課題対応(12)	i ~ iii	1
	IV (8) 地域に開かれた大学			
	○社会人の多様なニーズに対応した受け入れ方法の構築	ii	2	
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定			
		○「グローバル化アクションプラン」の発展への貢献(16)	ii ~ iii	2
その他	VII (3) 大学経営・財務内容の改善：資産の有効活用と自己収入の確保			
		○滝子キャンパスの一体化と整備への協力(17)	i ~ ii	4

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

芸術工学部・芸術工学研究科「希望と共感のデザイン」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

芸術工学研究科・芸術工学部は、「芸術工学」の原点に立ち返りつつ、大学院の研究教育体制の強化を行うなど、現代社会の困難な課題解決のために、希望と共感のもてるデザイン研究、教育拠点を目指します。

「芸術工学」は新しい学問分野として、理念の構築に多くのエネルギーが注がれてきました。学部創設後今日までの20年、地域社会から国際社会に至るまで、学術分野の実績及び社会への貢献を積み重ねながら理念を検証してきたと言えます。この機会に創設時の理念を再確認し、社会の状況の変化に対応すべく将来構想を構築するものです。そのために公立総合大学に設置された学部、都市部に立地するキャンパス、少人数による実践教育などを活かしつつ、大学院における教育研究体制の強化、学際的体制の構築を図り、地域のデザイン拠点を目指そうとするものです。

[芸術工学研究科長・芸術工学部長 鈴木賢一]

2 主な取組み

① 大学院生研究体制の強化

大学院生研究体制を整えるため、複数指導体制を効果的に進めるための合同ゼミの開催、研究進捗チェックのための中間発表の充実を図ります。

【期間】 i : 今後1年間に実現～ ii : 今後3年間に実現

② 外部資金の獲得推進

科学研究費の獲得支援体制の充実を図るとともに、自治体からの研究委託、民間との受託共同研究等の外部に対する働きかけを強化します。

【期間】 i : 今後1年間に実現～ ii : 今後3年間に実現

③ 実習課題への地域課題の導入

実習課題に、地域における課題解決のためのテーマを各領域で導入し、課題を通じた社会貢献を目指します。

【期間】 i : 今後1年間に実現～ ii : 今後3年間に実現

3 項目一覧

区分	項目 〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。〕	期間	掲載頁
総論	I (4) 名古屋市総合計画 2018 への名市大の取組みの掲載(医薬看工連携)		
	○学内における共同研究の推進(⑩⑮)	iii	10
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学教養教育への参画(①)	i ~ ii	9
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	①大学院生研究体制の強化	i ~ ii	8
	○学部における他領域の学習	iii	9
	II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実		
	○学生のキャリア形成・就職支援の充実	i ~ ii	8
	II (7) リカレント教育の充実		
	○社会人のリカレント教育の推進(②)	i ~ ii	8
研究	III (1) 全学的な研究推進機関の設置		
	○複数教員による共同研究支援	iii	10
	III (2) 戦略的な外部資金の獲得		
	②外部資金の獲得推進(③)	i ~ ii	9
社会 貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進		
	○シンクタンク機能の強化(⑭)	iii	11
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	③実習課題への地域課題の導入	i ~ ii	11
	IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化		
	○小中学校と連携したデザイン教育	i ~ ii	12
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
○入試改革への対応(⑯)	i ~ ii	8	
	○高校との連携強化(⑫⑬)	iii	12
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○国際交流協定校との交流(⑰)	iii	11
その他	I (6) 総論：分散したキャンパスの統合		
	○キャンパス立地の検討(⑰)	iv	10
	VIII (2) 業務運営の改善：本学の知名度向上		
	○広報の充実	i ~ ii	13
	VIII (3) 業務運営の改善：大学教職員の人材育成・登用		
	○芸術工学部修了生の教育への参画	iii	10

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

看護学部・看護学研究科「進化する名市大看護学部・看護学研究科」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

「誰からも愛され頼りにされる名市大看護学部・看護学研究科に」

人々の健康の保持増進や社会的要請に応え得る看護学の一層の充実と発展を推進するために、看護学部・看護学研究科は看護研究の学術的追究とその成果を教育に反映させ、看護学教育の質的向上を図っていきます。また、看護学分野別認証評価受審による評価にて教育研究水準を保証します。他の研究科や病院等、そして地域社会との連携を強化することにより、学術的追究と看護実践力の一層の向上を図り、社会から期待される保健・医療・福祉に貢献する優秀な人材を輩出します。また、高度実践看護師等の育成を推進することにより、臨床・臨地での看護水準、ひいては医療水準を上げる指導力をもったリーダーを育成していきます。

[看護学部長・看護学研究科長 北川真理子]

2 主な取組み

① 実習施設との連携による教育方略の導入

医学部附属病院を始めとする実習施設と連携して、現役看護職者による臨床教授等を拡充し、臨床現場での判断力・実践力を養う教育方略を導入します。

【期間】 ii：今後3年間に実現～iii：今後7年間に実現

② 名古屋市立大学看護学会（仮称）の創設と学会誌の発刊

名古屋市立大学看護学会（仮称）を創設し、看護学部教員の研究活動を更に促進すると共に、大学院修了生、医学部附属病院や市が設置する保健医療福祉機関等の看護職員が行う研究成果を積極的に発信します。

学会の創設を機に、現在刊行している看護学部紀要を「名古屋市立大学看護学会誌（仮称）」に改め充実させます。

【期間】 ii：今後3年間に実現

③ 学部開設20周年（2019年）記念事業の実施

2019年に迎える学部開設20周年に向けて気運の向上に努め、同窓会をはじめとして機動的な情報発信を行い、記念事業を企画し実施します。

名古屋市立大学看護学会（仮称）の創設に際し、同窓生への積極的な学会への参加を促進し、母校愛を醸成します。

【期間】 ii：今後3年間に実現～iii：今後7年間に実現

3 項目一覧

区分	項目 〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。)〕	期間	掲載頁
総論	I (1) 愛校心の醸成・開学 70 周年(2020 年)に向けた気運向上		
	③学部開設 20 周年(2019 年)記念事業の実施	ii ~ iii	3
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学的な教養教育の充実への協力(❶)	ii	1
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	○看護学教育認証評価制度を踏まえた教育システムの整備と認証評価の受審	iii ~ iv	1
	○市民の健康と福祉の増進に貢献しうる優秀な人材の輩出(❷❸)	ii	1
	①実習施設との連携による臨床判断力・実践力向上を目指した教育方略の導入(❹)	ii ~ iii	1
	○大学院の活性化(❺)	iii	1
	○医療心理センター(仮称)設立への協力による実践的な人材育成(❻)	ii	2
II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実			
	○高度実践看護師教育の充実と拡大	ii	2
研究	III (1) 全学的な研究推進機関の設置		
	②名古屋市立大学看護学会(仮称)の創設と学会誌の発刊	ii	2
	III (5) 看護実践研究センターを中心とする学際的研究の推進		
	○学内他部局や他大学との連携による研究体制の整備と学際的研究の推進(❸)	iii	2
社会貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進		
	○看護実践研究センターを軸とした市民や地域の問題解決に寄与する事業の推進	i ~ ii	2
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	○地域の看護水準向上に資する新規事業の展開	ii	2
IV (3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功			
	○「なごやかモデル」事業の継続による地域貢献(❹❺)	ii	2
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○英語教育、海外留学の推進(❻)	ii	3
	○学生の国際交流推進(❻)	ii	3
	○医療現場での外国人患者の支援に関する教育の取組(❻)	ii	3
	○教員の海外研修や、海外の研究者との共同研究の促進(❻)	iii	3
その他	VII (5) 大学経営・財務内容の改善：施設整備にかかる財源の確保		
	○学生生活環境・教育環境の整備、新たな学部棟の施設整備(❶)	iv	3
	VIII (2) 業務運営の改善：本学の知名度向上		
	○広報の充実化	ii	3
	③(再掲)学部開設 20 周年(2019 年)記念事業の実施	ii ~ iii	3

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

システム自然科学研究科「リーディング・サイエンス・プラン」

1 策定にあたって（未来プランが目指すもの）

理学系研究科として世界的な先端研究を推進するとともに、組織の充実により名古屋圏域の基礎科学教育をリードし、地域の発展をサポートします。

本研究科は学部を持たない独立研究科として名古屋市立大学の基礎科学研究や大学院教育などを担ってきましたが、研究をさらに推進するだけでなく、名古屋圏の基礎科学教育の振興にも貢献したいと考えています。そのため、理学系新学部の設置や高齢者による自然科学振興組織の設置などの検討・実現を目指します。

[システム自然科学研究科長 杉谷光司]

2 主な取組み

① 研究基盤の重点的整備の推進

研究基盤の重点的な整備を推進するため、既存の研究センターの機能を高め、かつ新たな研究センターの設立を目指します。

【期間】 ii：今後3年間に実現～iv：15年後を見すえて

② 理学系新学部の設置

理学系の新学部設置に向けて取り組みます。

【期間】 ii：今後3年間に実現～iv：15年後を見すえて

③ 高齢者による自然科学振興のための新たな組織（SSLC）の構築

自然科学の知識と経験があり、向上心に富んだ高齢者の新たな活躍の場として、初等・中等教育における科学振興に携わる SSLC（シニア・サイエンス・リーダーズ・クラブ）の設立を目指します。

【期間】 ii：今後3年間に実現～iv：15年後を見すえて

3 項目一覧

区分	項目 〔上段：名市大未来プランの区分 下段：学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。〕	期間	掲載頁
総論	I (5) 新学部の設置		
	○教養教育改革の推進(①)	ii ~ iv	3
	○②理学系新学部の設置	ii ~ iv	3
	○新学部設置のキャンパス内スペース確保等の検証(⑩)	ii ~ iv	3
教育	II (3) 学生数・教員数の増加		
	○2 専攻化による教育・研究体制の充実	ii ~ iv	3
	○バランスの取れた分野の構成	ii ~ iv	3
	○受け入れ学生の増加	ii ~ iv	3
研究	III (4) 共用研究施設・設備の充実		
	○①研究基盤の重点的整備の推進	ii ~ iv	2
	○研究の選択と集中	ii ~ iv	2
	○学内他部局と連携した研究の効率的な推進(⑪)	ii ~ iv	2
社会貢献	IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化		
	○SSH 採択校との連携と理科教育の充実(⑫⑬)	i ~ iv	5
	○地元の優秀な学生の育成(⑭)	i ~ iv	5
	○③高齢者による自然科学振興のための新たな組織 (SSLC) の構築	ii ~ iv	5
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
	○(再掲)SSH 採択校との連携と理科教育の充実(⑫⑬)	i ~ iv	5
	○(再掲)地元の優秀な学生の育成(⑭)	i ~ iv	5
	○③(再掲)高齢者による自然科学振興のための新たな組織 (SSLC) の構築	ii ~ iv	5
	IV (8) 地域に開かれた大学		
	○サイエンスカフェと市民公開講座の継続及び発展(②)	i ~ iv	5
○SSLC を活用した地域貢献	i ~ iv	5	
○名市大科学教育推進センター (仮称) の設置	i ~ iv	5	
国際化	V (3) 生物多様性研究の国際的な拠点づくり		
	○優秀な留学生獲得のための支援体制の確立(⑮)	i ~ iii	4
	○研究協定の締結と交流の拡大(⑯)	i ~ iii	4
	○生物多様性研究センターの機能充実(⑯)	i ~ iii	4

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。